

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2671200117		
法人名	ヤマト株式会社 ニングルの森		
事業所名	ニングルの森 平尾		
所在地	京都府宇治市平尾台一丁目3-8		
自己評価作成日	平成30年9月30日	評価結果市町村受理日	平成30年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2671200117-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2671200117-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル梅湊町83-1「ひと まち交流館 京都」1階		
訪問調査日	平成30年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅地の中、民家改修型の建物で段差、階段もありますが、身体機能の維持を自然と行い、とても落ち着いた雰囲気の入居者様は、今まで過ごしてきた自宅に似た家庭的な環境で自分の居場所、役割を持って過ごして頂いています。職員も10年以上勤務している者から60~30代の職員が意見を交わし合い、一人一人の入居者様の思い、要望を把握し、「共に笑顔の日々を」を目標にし、笑顔、笑い声の絶えない生活を一緒に味わい過ごしております。職員だけでなく、ご本人を中心に、医療、家族、地域と共にチームと考え、繋がりを大切に、より良いケアに繋げる努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宇治市の北東部に位置し、JR六地蔵から京阪バスにゆられて「頼政道」で下車すると閑静な住宅街が広がっている。かつて源頼政が大津の園城寺から奈良へ平家の追手から逃れ、通った道であることから現在もバス停にその名が残されている。そんな歴史を感じる雰囲気を持つ地の一面にこの事業所がある。和風の一戸建て住宅である。一ユニット九名の入居者が「我が家」として穏やかに日々を過ごしている。「すべての人々が笑顔で日々を過ごす」を目標に実践している事は、入居者・職員の笑顔から日々の状況を推し量る事ができる。絵手紙や生け花のクラブ活動は、日常生活に変化をもたせている。廊下に座って中庭の樹々を眺めたり、玄関先を掃除したり日々の日課にとられることなく、自由な時の過ごし方がある事業所である。男性二人は每晚おしゃべりしながら晩酌を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念「自然、地域と統合した人間として幸せな生活」と掲げ、毎年、目標を職員間で決め、今年は「めざせ ニコニコ100歳、共に笑顔の日々を」とし、職員は、入居者様の日々の体調、思いを把握、都度、報告し合い、情報を共有しながら安心できる生活を支えている。	法人の理念と共に事業所としての年間目標を職員で話し合い共有して日々の支援につなげている。「すべての人々が笑顔で過ごせる」を目標の柱にして、残存機能の維持・クラブ活動・地域住民との交流など工夫して実践している。「退屈させない」「孤独にさせない」時間をボランティアや職員と共に大切にしている。入居者・職員の穏やかな笑顔から、実践状況を見る事ができた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には、周辺の掃除、散歩時の挨拶で関わり、学区福祉委員の活動のお手伝いや小学校の下校児童の見守り、子供110番に登録。地域行事にもお手伝い、入居者と参加している。地域住民が趣味を活かして来所され交流を図っている。	事業所としては、町内会に入会していないが、オーナーが入会されているので、地域の行事などの情報は得られる。事業所の夏祭りや地域の行事など双方向で参加している。近隣には、学校や保育園があり「幼老のふれ合い」の機会もある。地域住民がボランティアで来所され、楽しいひと時を共有している。職員が気づかない外塀の破損箇所を近隣の住民から教えてもらう事もある。今では、地域住民にとっても大切な「家」になっている感がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区の中学生の職場体験や大学生の実習の受け入れを行い、認知症について知識を伝えたり、また、法人主催の夏祭りを行い、地域住民に事業所内に入ってもらうことで交流から理解を深める機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を奇数月に行い、メンバーが参加しやすい曜日や時間を聞き取り、平日と土曜交互に開催している。2ヶ月分の活動報告や課題やヒヤリハット、事故、防災についても報告し、意見交換を行っている。	会議には、行政担当職員・地域包括支援センター職員・地域住民・家族などが出席している。事業所からは、本部責任者・管理者が出席し、事業所の状況報告や行事予定・法人の取り組みなど説明し理解を得ている。家族など出席者からそれぞれの立場からの情報伝達や意見が出されている。玄関横に掲示板を設置して、事業所の情報などを地域住民に提供するようになったのは会議で提案されたからである。	

京都府 ニングルの森 平尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括の職員、宇治市の介護保険課の職員が参加をし、事業所の現状を報告し、相談や介護保険制度について質問や意見交換ができています。	運営推進会議に、行政の担当職員や地域包括支援センターの職員が出席しているので、事業所の状況などの理解を得ています。また、行政の担当職員から介護保険制度の情報などを得たり、相談事案などでアドバイスをもらって、双方向での協力体制を確保しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指針における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居契約時に「身体拘束は行わない」と説明をし、職員には毎年研修を行い、周知徹底を図っている。また、虐待、身体拘束禁止委員会を設置し、目標や自己チェックを行い、対応を振り返り、確認できるように取り組んでいる。	ヤマト株式会社 ニングルの森グループで「身体拘束廃止に関する指針」を作成している。内容には、目的や定義・考え方を明確にしている。「身体拘束禁止、虐待防止委員会」の設置、職員に対する研修なども定めて実践に繋げている。日常的にも、入居者の行動を抑制するような言葉かけや言葉遣いに留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に毎年研修を行うと共に、委員会により、疑わしい事例等、見過ごされないよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族間との関係や必要に応じて市へ相談、後見人制度の支援を行う。研修があれば情報収集の機会を職員にも勧める。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行い、不明点は無いかな確認しながら同意を得て契約を交わしている。入居後も法改正の説明、同意書を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは事あるごとに連絡を取り、意見を求め、相談し合っている。家族の来訪が少ない方もあるので全体として、アンケートを取り家族の意見、要望を把握するよう努めている。	入居者の要望などは、日常生活の中から汲み取っている。家族などからは、来所時の会話の中や電話などで意見・要望を聞き取るように努めている。更に、年一回アンケートを実施して意見・要望を聞き取る機会にしている。全員からの回答を得ているが、ほとんどで感謝の言葉になっている。運営推進会議に出席される家族からも意見を聞き取る機会になっている。提案内容に応じて対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の意見が言いやすい環境やコミュニケーションを取る中で意見を組み取り、勤務時間等業務の改善に繋げている。管理者は、法人の会議で職員の意見を伝える仕組みがある。	職員からは、日常的に申し送り時や職員会議などで話し合っており、情報・意見交換を行っている。管理者は、職員が意見や提案が出しやすい「雰囲気づくり」に配慮している。また、事案に応じて法人本部に繋げている。休憩の取り方の意見があり、話し合いの上改善した事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回評価を行い、個々の能力を把握し、やりがいや資格取得等目標を定め、モチベーションの向上に導いている。実務者研修の助成や介護福祉士受験対策勉強会など資格取得の取り組みがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験や役職にて階層別に研修を計画し、また、自己啓発、自ら望む研修の参加ができ、知識や技術を得る機会を構築している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宇治市の相談員派遣事業で年に1度他の事業所と交流し、情報を収集する機会がある。今年度、宇治市はグループホーム事業所の意見交換会が予定されている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を中心とした個別ケアに取り組むため課題が見つければその都度、朝礼やカンファレンスで話し合い、対応の修正工夫をして職員間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初の面談や日々の来所時、行事参加の時には、今迄の生活歴や、趣味等の希望を伺い、家族様の思いも出来る限りプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護計画には、出来る事を中心に地域の社会資源も活用して、繋がりを大切に組み入れている。此処のルーティン業務は、個別ケア表にまとめて職員間で周知している。		

京都府 ニングルの森 平尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が活躍できる場面を中心に、今、何がしたいか、どうしたいと思っているか？を出来る限り把握して、少しでも充実感が持てる様に共に過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何でも言い合える関係作り、毎月の近況や通信で生活状況やエピソードを伝える事で、現状を把握して頂き、連携や協力も得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り地域の社会資源であるボランティア参加を受け入れ本人も地域の行事や催し物への参加をしている。友人や家族の来所時には居室で一緒に食事やお茶を楽しんでもらっている。	友人や家族などの来所時には、ゆっくり時間を過ごして貰えるように心がけている。しかし、友人や知人も高齢になり来所される機会が少なくなってきており、電話で近況を伝えたりもしている。地域の行事での出合いや傾聴ボランティアや大正琴を披露して下さるボランティアの方達との新しい馴染みの関係が出来ている。春には、桃山城にお弁当持参で出かけたり秋には紅葉見物を兼ねてドライブを楽しんでいる。敬老の日には外食の楽しみもある。新しい馴染みや思い出づくりができるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	男性利用者様同志の関わりでは、夕食時の晩酌(家族様の希望でもある)を通じて、昔懐かしい職業話や武勇伝を話してコミュニケーションを楽しめる様に座席にも配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設や入院、自宅に戻られる等の場合、ここでの生活の情報を提供し、連絡や相談があればその都度対応している。又、退去後娘様が「うちの母は、お陰様で大往生で○日に亡くなりました。」等伝えに来て下さる事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	課題が見つければその都度カンファレンスをして、現状を話し合い、情報を共有し本人本位を出来る限り大切にしている。夜勤者の意見や、入浴時の会話等から本人にとっていま何が一番大切かを話し合っている。	初回面談で、本人や家族などから生活歴や心身状況・趣味・今後の生活に対する希望など聞き取り所定のアセスメント表に記載している。入居後は日常生活の場で、言葉や行動などから「その人らしさ」を汲み取って記録し支援につなげている。また、希望に応じて体験入居の機会を設け、情報を得て入居後の支援に活用している。	

京都府 ニングルの森 平尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	行事や来所時等、家族様との会話から、今までの過ごされてきた生活歴や、環境、関わり等伺い、現在の生活でのケアに生かせるように周知し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	簡単な家事やレクリエーション等参加出来る方も少なくなって来たが、出来る限り生け花や、お茶、絵画教室、絵手紙等の活動へ促し、継続的に楽しんでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼や、カンファレンス時に今疑問に思っている事や、困っている事を今後の課題として検討し合い、現状に即した介護計画を出来る限りしている。日々のルーティン業務は、ケアプランに組み入れ、新人が見ても対応出来る様明確にしている。	日常的に「気づき」があれば職員間で話し合う仕組みを持っている。また、個別支援記録から状況を纏め毎月モニタリングを行って、支援状況の振り返りを行っている。その結果を基にサービス担当者会議を開催している。家族の参加もあり意見など聞き取って介護計画の策定に反映させている。医療関係の情報は往診時に聞き取っており、現状に即した介護計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護者間で課題が見つければその都度話し合う。又、現状に即したテーマを決めて、カンファレンスをして、ニーズを引き出してケアプランに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今迄の生活習慣を大切に、家族様の協力のもと馴染の場所に出掛けられたり、趣味が続けられるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れ、地域の社会資源（公園サロン、宇治作業所の訪問販売やなかま祭り等）への参加を通じて、地域の方とも交流している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診時に体調の相談をして処方薬の変更や、紹介された専門外来の受診等、家族様とも連携を密にして適切な受診が出来る様に対応している。	事業所の協力医療機関から定期的に往診を受けている。眼科など専門外来に関しては主治医による紹介で受診している。受診には家族などの協力を得ている。看護師（非常勤）を配置し夜間にはオンコールで対応している。希望により訪問歯科の体制がある。職員は歯科医や歯科衛生士から口腔ケアの指導（口腔機能維持に関わる助言）を受けて入居者の口腔ケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の体調異変や状態を看護師に報告、相談をして、管理者から主治医に報告、相談して指示を受ける様にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに医療機関に情報提供を行い、本人家族様が安心出来る様に連携を図っている。又、見舞う事で本人の状態を把握して、職員間で共有し退院に繋がる様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には、状態の変化による重度化の対応を説明をしている。状況に応じ事業所で出来る事、家族の思いを充分話し合った結果に基づいて、必要な支援を行っている。	「グループホームにおける重度化対応に関する指針」を作成し、事業所としての考えを明確にしている。契約時に説明し理解を得ている。入居者の健康状態に応じて、医師・家族・職員などが話し合いを持ち、適切な対応に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は、個々の対応を職員間で研修をして把握している。発生事項、判断に迷う時は、速やかに管理者、主治医、看護師に連絡する体制をとっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、夜間想定を含めた避難訓練を行う。防災についてもマニュアル化し、職員全員が周知、対応できるよう目につくところに設置をしている。訓練の際に地域の協力は難しいが地域の防災訓練には参加をするようにし、繋がりのきっかけを作るように努力している。	消防訓練計画に基づき、昼間・夜間を想定した実地訓練を行っている。隣接する小規模多機能事業所と合同で行い協力体制を築いている。一回は消防署の指導を受けて、有事には的確な行動がとれるように努めている。今の所、地域住民の参加は得られていないが、地域の防災訓練には職員が参加している。備蓄は、食料品・水・衛生用品など必需品を用意している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声掛けはプライバシーに配慮し、他者にはなるべく聞こえないよう行い、介助時には自尊心を気付けないように気を配っている。居室への訪室時も入室前に声掛けを行い、許可を得てから入室している。	事業所の目標に「めざせ にこにこ100歳 共に笑顔の日々を」と定めている通り、一人ひとりの笑顔を大切にしている。その為には、それぞれの「思い」を汲み取り、プライドやプライバシーを損ねないように言葉遣いや声かけにも留意している。排泄介助や入浴介助時には羞恥心を抱かせない様に配慮した支援をおこなっている。	

京都府 ニングルの森 平尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やレクへの参加、静養など個々に合わせて本人の意思を尊重し支援している。よく考え悩まれる方には、時に合わせクローズドクエスチョンで二者択一の中から選べるように行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	直ぐに対応出来ない場合には、「〇分待って下さい。」など具体的に伝えている。自宅で生活しているような雰囲気を意識し、その日の体調に合わせて本人の意思を引き出せるように声掛けを行い、出来る限り自分のペースで過ごして頂く。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には自己決定された衣類や自身での整容を大切に支援しています。また、決定に悩まれる方には、非言語コミュニケーションを意識し季節に合ったものを着用して頂いている。浴後には鏡の前で本人の希望をお聞きし、個別に髪をまくなど対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の物や新しい野菜など、一緒に買い物に出掛け出来る限り調理や盛り付け、配膳、下膳食器洗いや拭きなどの役割を持って頂いている。月に一度は利用者のリクエスト献立を行っている。	日々の楽しみの一つである食事を大切にしている。栄養士の資格を持つ職員が入居者の好みを把握して献立を立てている。買い物から下ごしらえ・調理・盛り付け・後片付けまで、分担して出来る事を職員と一緒に楽しみながら行っている。月に一度の入居者のリクエストによる食事は、チラシ寿司やうなぎ丼が好評である。おやつには、和菓子が好まれている。笑顔と共に「美味しい」「美味しい」という声が聞かれる食事風景があった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格のある職員が、バランスの良い献立をたてている。食事の形態は個々に合わせ刻み食や代替食等の対応をとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後見守り介助にて口腔ケアをし、夜間は、洗浄剤で義歯の洗浄をしている。		

京都府 ニングルの森 平尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛け誘導を行う。一人一人の排泄パターン把握し確認している。汚染が軽減できるよう支援。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要に応じて適宜声掛けや誘導でトイレでの排泄に繋げている。自立している入居者もあるが、状況に応じてリハビリパンツやパットなどを利用し、少しでも快適に過ごして貰えるように配慮している。また、夜間帯には安眠を考えて下着の選択を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録で確認している。水分補給を定期的に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調やペースに合わせて見守り、介助にて入浴を楽しまれている。	入居者のその日の体調や気分を考慮して入浴を決めている。基本的には週二回を目安にしている。しょうぶ湯やゆず湯など季節を体感して貰うようにしている。ゆっくりと職員と話しながらの入浴タイムを心掛けている。特に男性は「面倒や」の一言で入浴を拒否される事もあるが、職員の巧みな誘導で入浴され「気持ち良かった」の声が聞かれる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活パターンを把握する。夜間の睡眠体調など朝礼時に申し送り確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み残しや落葉等が無いよう飲み終わるまで見守る。薬の変更、追加、注意事項は連絡確認している。連絡ノートもかつようしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の体調に合わせ趣味や得意分野参加を促し、喜びある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の移り変わりを感じられる場所へドライブ、散歩、買物、外食など楽しんでおられる。地域の祭りや公園サロンにも参加している。	日常的には、玄関周りの掃除や中庭にてたり、思い思いに過ごされている。隣にある公園でのイベントや地域の行事に出かけたりしている。季節の花見や紅葉見物などでドライブしたり、外食に出かける機会も設けている。食材の買い物も楽しみの一つである。	

京都府 ニングルの森 平尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員はお金を持つ大切さを理解しており、好みの物を購入し支払いをして、楽しみに繋げている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により家族との電話を取り次ぎ、安心していただけるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雑誌や本が自由に取り出して読める環境を提供している。 季節を感じられる作品を利用者として作り、目の付く場所に飾っている。	日本家屋の雰囲気落ち着いた風情を感じさせている。二間続きのリビングダイニングには、洒落たシャンゼリアや壁につけられた照明も上品な明かりになっている。時には食卓に、時にはレクレーションの作業台になるテーブルを適宜配し、それぞれ好みの場所で寛いでいる姿があった。玄関や廊下などには、季節の花が活けられており、目や心が癒されている感じがある。特にあちらこちらに時計が掛けられていた事は、時間の流れをいつでも、どこでも見られる事で時間の認識ができる事に繋がっている。不快になるような臭いや音もなく落ち着いた空間があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等で利用者同士ゆったりと会話を楽しめたり、1人でゆっくりと休んだり静かに過ごせる場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物や、家族の写真等を飾り落ち着いた環境を家族さんの協力のもと作っている。毎月、生け花や絵画も飾っている。	一般家屋を活用している関係上、各居室にはそれぞれ特徴がある。床の間や欄間・紙障子など日本家屋ならではの部屋づくりがある。2階には洋間もあり、部屋の主は思い思いの部屋づくりをしている。季節の花が活けてある部屋もあり、窓から隣の公園の樹々の紅葉が見られる部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口には表札を掛け、解かりやすく迷わない工夫をしている。自分の居室が解からない方や、歩行や階段昇降時には声掛け、見守り、介助など安全で自立した生活が送れるように支援している。		